

7年間ありがとうございました

総合診療科 李 瑛

2025年4月末をもって、日野病院・鳥取大学医学部を退職することになりました。子どもの病気が2月に見つかったためです。慌ただしく様々なことを決定せねばならず、自分が担当させてもらっている患者さんに十分な説明ができなかったことをお詫び申し上げます。

日野病院の勤務は2018年からでしたので、長い方だと7年間のお付き合いになりました。外来では様々なお話を皆様から聞かせていただきました。昔の仕事、タバコをやめたきっかけ、ペットの名前。特定の臓器だけを見るのであれば飼っているペットの名前までは必要ないかもしれませんが、患者さんを一人の人としてみる、そして家族の一員、地域の一員として見ていくうえで、この患者さんはどういう生活をしていて、どういうことに楽しんだり苦しんだりしているのかな、ということを理解しようとさせていただきました(私の専門である家庭医においてはとても重要な視点です)。

皆様、人生経験が豊富で、未熟な私がこれから直面するであろう人生の端々をいろいろとお話してくださいました。歳を重ねてできていたことができなくなってきた辛さを話してくれる方、遠方に離れた子どもを心配する高齢の患者さん、家族関係に悩まれていた方、亡くなられたご家族に感謝の思いをおっしゃってくださる方、長い冬の後に咲いた小さな花に春の訪れを感じて喜びを伝えてくれる方など。外来担当医師として患者さん・ご家族さんと悩んだり喜んだりすることができたことは、私にとってとてもとても貴重な時間でした。

日野病院で勤務している殆どの期間を日野町に住み、娘もひのっこ保育所を卒業させてもらいました。家族で根雨のまちなかを歩いたこと、コロナ禍で密を避けて滝山公園に行ったり、町のイベントで鵜の池を歩いてキノコを見つけたり、黒坂フェスタでぶらぶら歩いたり、町内各地の公民館やおしどり学園でお話もさせてもらいました。学生時代に地域医療研究部に所属していたため、江府町にも出入りさせてもらっていました。学生時代に自分が訪れた地区の方が患者さんとして来院されると当時の思い出が思い出されました。2014年からは伯耆町の二部診療所でも勤務をさせてもらいました。日南町の患者さんも担当させていただき、広島県境の地域から日野まで出てこられた方から厳しい冬の寒さの話聞いて、根雨との違いに驚いたものです。

担当させてもらった患者さんには直接お伝えしましたが、子どもの大病というのは非常に稀なことで、健康に気を遣っている医者であっても、医者の家族であっても、誰しもが病気になるということに改めて感じさせられました。おそらく多くの患者さんがそうであったかのように、なぜ私の家族がこんな病気になるのだという自問自答をすることもありました。今回の経験が医師である自分自身の成長と、家族の絆を強くすると信じて、病気と戦う子どもを応援していきたいと思います。

春から環境が変わり、実家に近い関西の医療機関で勤務する予定です。日野病院とは違った環境での勤務になり、慣れ親しんだ鳥取の方言をいったん置いて、関西弁を思い出しつつも、目の前の患者さんの幸せが何なのかを常に考えながら、診療に取り組んでいきたいです。

最後になりましたが、7年間本当にお世話になりました。地域の皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

